

第 57 号

平成 25 年

8 月

HP に 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試してください。

山田整骨院

熊本市中央区出水 4-25-1

096-364-7611

<http://yamadasu.com/>

熊本交通事故, 山田整骨院

検索

<http://www/jiko-kumamoto.net/>

丈夫な子を育てるために 医学博士 樫尾太郎

昭和 52 年 4 月号 月刊西医学

妊娠までが大事

男女の相性というのは、多くの場合たして二で割った場合に、中庸となるのが原則である。太った人とやせた人、酸性体質とアルカリ性体質、血圧の高い人と低い人、女性的な男性と男性的な女性というふうに、体質も性格も反対な者同士だと、子供はその中間になりやすい。中庸からはずれた者は自然淘汰により亡びるという自然界の原則があるからである。…略…結婚する前に健康で自分と反対の体質の相手を選ぶことと、夫婦が妊娠前から西医学生活を守って健康を保っておくことが必要である。…略…美食家は妊娠しにくい。養子が何代も続くのもそのためかも知れない。生野菜を食べていると妊娠しやすい。妊娠可能日（排卵期）前 2, 3 日から、おかゆでも食べて栄養をおとすことを、夫がやれば男の子、妻がやれば女の子をはらみやすい。一週間も断食すると、不妊だった人も妊娠することもある。合掌合蹠は子宮の位置を正し、卵巢の機能を回復させる。両手掌と両足蹠をそろえたまま数十回屈伸し、その後屈した位置で五分以上そろえることを朝夕行う。

妊娠の心得

妊娠中は体液が酸性に傾くので、野菜、海藻、果物、特に生野菜を充分にとるのがよい。アルカリの代表であるカルシウムは胎児の骨格や歯をつくるために、母親の血液から摂られるので、歯も骨もだめになってしまう。それを防ぐためには、生水、生野菜、小魚の骨から補給するのもよいが、卵の殻を洗って乾かし、乳鉢で細かい粉末にして、3 日に 1 個分を食するのが適当である。白砂糖は避けること。

お腹が大きくなってくると、腹の出っ張りを支えようとして、足首に無理が生じ、足首の故障から腎臓に影響して、タンパク尿、浮腫、血圧上昇をまねく傾向がある。そのためにも、体液は酸性に傾く。足首の故障を治すためにも、下肢の浮腫や静脈怒張を防ぐためと、毛管運動が必要である。

朝夕、合掌合蹠を行うことにより、逆児でも一週間で正常位となり、腹筋を丈夫にして、娩出力を強め、産後の子宮の収縮も早くなる。つわりは肝臓の障害が原因とされているが、便秘傾向の者に多いと思われる。スイマグをふだんから用いるのがよい。人間は立つので胎児は子宮内でさかさになっている形だが、這えば水平になるので、逆児もつわりも起こらない。つわりを治すには、1 日に 20 分間四つ這いに這うのがよい。一度に 20 分でなくても、5 分ずつ、4 回でもよい。座敷を 8

の字に這うのであるが、足蹠を畳につけ、膝をのぼし、頭を高くあげ、右手と左足、左手と右足を同時に前へ出すようにして進む。吐くのは胃液の酸を捨てて、酸過剰を解消するのが目的であるが、つわりは病気ではないから無理して食べた方がよい。スイマグは収斂剤で、縮まるから、腸壁に付着した便が取れるのであって、普通の下痢と違っていくら飲んでも流産する心配はない。流産するのは、足の故障により、子宮のずれや傾きを起こして胎児の居心地が悪くなることと、ビタミンCの不足により胎盤が剥がれやすくなることが原因になる。乗物に長時間乗って上下にゆすることや階段を昇降することは避けた方がよい。

妊娠中は卵をふ化させるように体温が平素より高くなっているため、一層ビタミンCの消耗がひどくなる。柿茶、アスミン、生野菜、果物などから十分に補給することが必要である。ビタミンCが不足すると、胎児がミツクチや赤アザなどになりやすく、母親が風疹にもかかりやすくなる。風疹にかかると、胎児に小頭症、聾、心奇形、白内障などをおこすといわれている。特に妊娠4ヶ月までの感染が問題になる。原因がウイルスというが、それも血液のオリ（よごれ）であり、タンパク質の分解産物であるから、生野菜を食べ、温冷浴を行っていけば心配はない。妊娠中、余り大事にして動かないでいると、胎児が大きくなり過ぎて、産むのに骨が折れる。金魚、毛管、合掌合蹠を行い、脊柱や足の故障を治しておいて、どんどん動いている方が、安産をのぞむことができる。略… もし下肢静脈瘤が生じたら脚絆療法を行うとよい。略… 脚絆療法を行うことにより子宮の循環もよくなり、腎臓障害も防ぐことになるので、一週間に一度でも実行することが望ましい。…略

解 説

樫尾先生は東京大学医学部卒ですが、入学前から西勝造先生に師事し、東大で現代医学を学んで医師免許をとった後、西医学の研究と実際の治療に携わりました。本論文は大変具体的で分かり易く為になります。一回では載せきれないので、次号に続きを載せます。カルシウムの摂り方は結構難しいものですが、西式では以前から卵の殻を利用し、実績を上げていますのでお勧めです。足首の故障は腰痛、腎臓病の原因です。西医学では足は万病の元と言います。毛管運動は普通は両手、両脚を天井に向けてまっすぐ伸ばして、1～2分微振動を行います。妊婦さんは片脚交互に行ったほうが無理がなくて良いと思います。足の故障とは、足の歪みと浮腫等の血液循環不全のことです。合掌合蹠運動、上下運動、扇形運動、脚絆療法で治します。ビタミンCを西医学では柿の葉茶と生野菜青汁で摂ります。人工的に作ったビタミンCは勧めません。ビタミンCがないとコラーゲンというたん蛋線維はできません。コラーゲンは皮膚の70%を占め、骨、軟骨、靭帯を作り、血管、内臓の皮膜を作り、歯、髪、筋肉の中に、又、体液中の液体成分の一つとして存在します。柿の葉茶を飲んで温冷浴をしてきたお産婦さんは、お産のとき出血がないそうで、出血がないから産後の肥立ちがいいそうです。赤ちゃんもピンク色で本当にきれいだそうです。